

高知くらしの護身術

101

危ない投資話

高配当うたって勧誘

(2008年8月12日掲載原稿)

最近破綻した高配当をうたって出資を募った「海老の養殖事業」、警察の捜査で事業収益からではなく新たな出資金から配当がなされていたことが明らかになってきました。このように事業の実体のない出資話が高齢者を狙っています。

事業への出資話だけでなく、高配当をうたった海外での貴金属取引や、先物取引には危険がいっぱいです。悪質業者は、「世界的な低金利政策はご存知でしょう。世界中で資金が余っています。石油の高騰同様貴金属（穀物）も投資のチャンスです。絶対に儲かります。何々についてはご存知でしょう」と人間の「気位」を利用して質問を封じ、取引（商品）内容を十分に理解させずに（リスクについて説明することなく）契約させようとしています。

また、こうした類の話には、出資者を紹介すると手数料が入るということもよく聞きます。出資者を紹介すると〇万円の紹介料が入るという話、真実なら、事業者には出資者に約束する高配当に紹介料〇万円を加えた額以上の儲けがあるということです。こんな割のいい話が本当にあるのでしょうか。架空の話か非常に高いリスクのある話と考えるのが自然です。配当金や紹介料が、事業収益からではなく、新たな出資者や会員のお金から支払われるとすると、「海老の養殖事業」と同じではないでしょうか。

組織を拡大することによって配当等を確保する組織は必ず破綻します。1人が3人づつ紹介していくと、18代目で日本の総人口をオーバーしてしまいます。

「うまい話」と友人・知人に紹介して、破綻ともなれば、あなたは加害者にもなります。君子危うきに近寄らず。「うまい話」には必ず落とし穴があります。